

第四支部「宗像大島」研修終了報告

～「神宿る島」宗像沖ノ島と関連遺産群と太宰府研修～

第四支部運営委員会

2019年8月24日（土）～25日（日）の一泊二日で「宗像大島研修」が実施されました。関東から九州の各地から20名（会員16名、非会員1名、委員3名）が参加、宗像大島のことを知りたい！という情熱溢れる方々が集い、充実した楽しい研修になったと思います。



まず一日目はJR鹿兒島本線東郷駅集合後、貸切バスで宗像大社辺津宮へ行き、権禰宜の御床直之氏から国の重要文化財に指定されている本殿・拝殿から露天祭祀の下高宮祭祀遺跡までを丁寧にご案内いただきました。自然豊かな広い境内は厳かな雰囲気漂う素晴らしい空間でした。高宮は宗像の神が降臨したといわれている場所で、古代祭祀の姿を今に伝える全国でもまれな社殿のない祭場であり、自然崇拜である神道の原型を見ることができるところです。まさにパワースポットというにふさわしい神秘的なところでした。

その後、神宝館で学芸員の福嶋真貴子氏から宗像の歴史、宗像三女神への信仰、数々の国宝展示物などをとてもわかりやすく解説いただきました。次に「海の道むなかた館」で新原・奴山古墳群の説明、宮地嶽神社の古墳の説明を館長の岡崇氏から受けました。

辺津宮での研修後、神湊からフェリーで大島へ渡りました。台風や悪天候を心配した研修前でしたが、波も穏やかでスムーズに大島港へ到着、民宿「つわせ」のマイクロバスがお迎えに来て早速「大島交流館」で大島の様子、みあれ祭のビデオを鑑賞、その後、沖ノ島遙拝所を訪れました。大島の風に吹かれて気持ちよい夕方、遙拝所から天気がよければまっすぐ水平線に沖ノ島が見えるとのことで、皆で目を凝らしました。「見えた、あれだ！」と興奮の声があがる中で、民宿つわせのご主人が「あれは違います！今日は見えていません。」の言葉に、喧々譁々、結局地元の方が言うんだから本当だと皆納得。楽しいひと時でした。



夜は民宿の食堂で楽しく交流会。寝る時は女性陣は4人部屋でまるで修学旅行の気分でした。食事は魚尽くし。ご主人が海に潜って採ってきたサザエの刺身も絶品！翌朝もブリの手料理が何品も並び、皆様満足。また一晩中、波の音がザザザァ～と耳に心地よく、朝も波の音で目覚めるなんてこんな経験は初めてでした。

二日目は民宿のご主人の案内で展望台へ上り、やっと遙か沖合にかすかに沖ノ島を見つけて皆様大喜び。中津宮で権禰宜の壹岐氏の詳しい説明をいただいた後フェリーで戻り、再び貸切バスで新原・奴山古墳群を車窓で拝見して宮地嶽神社へ。奥社の円墳の大古墳の中も見学できました。その後、一路博多に向かい、九州国立博物館見学と太宰府天満宮拝観、さらに大宰府政庁跡、令和の名前の由来となったと言われる坂本神社も訪れて研修は無事に博多駅前にて時間内で終了しました。今回の研修では「神宿る島」沖ノ島を崇拝する伝統が、地元の漁師や神官達により古代から今日まで発展し継承されてきていることを如実に知ることのできた研修でした。